

国立大学図書館協議会シンポジウム・ 関東地区国立大学附属図書館職員研修会

第13回国立大学図書館協議会シンポジウムは、「オンラインジャーナルの導入と外国雑誌収集のあり方」をテーマとして、東地区は筑波大学を会場とし、西地区は名古屋大学を会場として開催されました。東地区では、第34回関東地区国立大学附属図書館職員研修会も同時開催されました。ここでは東会場の概要を報告します。

なお、西地区の開催状況も含めて各事例報告、質疑応答等の詳細につきましては、「大学図書館研究」に掲載される予定です。

[日程等]

1 開催期日

平成12年11月21日(火)～11月22日(水)

2 会場 筑波大学大学会館特別会議室

3 シンポジウム参加者31大学等から35名
研修会参加者 11大学等から14名

(11月21日)

基調講演：「オンラインジャーナルの導入と外国雑誌収集のあり方」

東京工業大学附属図書館事務部長 大埜浩一

サブテーマ1：外国雑誌の収集と提供

・事例報告

「総合大学図書館における外国雑誌の収集と提供」

北海道大学附属図書館情報管理課

雑誌受入掛長 片山俊治

「医科大学における外国雑誌の収集と提供」

山梨医科大学附属図書館教務部図書課

情報管理係長 金丸芳美

「外国雑誌センター館における収集と提供」

東京工業大学附属図書館情報管理課

雑誌収集掛長 堀松恵美子

(11月22日)

サブテーマ2：オンラインジャーナルの導入と契約

・講演「オンラインジャーナルの出版と価格の動向」

窪田国際事務所所長 窪田輝藏

・事例報告

「群馬大学におけるオンラインジャーナルの導入」

群馬大学附属図書館情報管理課

学術情報係長 瀧澤憲也

「IDEALオープン・コンソーシアムの共同利用に

ついて」 JIOC / NUを中心に

千葉大学附属図書館情報管理課長 平元健史

「大学と高専のオンラインジャーナルの共同利用」

長岡技術科学大学附属図書館教務部図書課

目録情報係長 島影昭児

「東京大学におけるオンラインジャーナルの取り組み」

東京大学附属図書館情報管理課

資料契約掛長 藏野由美子



[開催概要]

第1日目には、東京工業大学附属図書館の大埜浩一事務部長から、メインテーマにも掲げられています「オンラインジャーナルの導入と外国雑誌収集のあり方」と題して、基調講演をしていただきました。2日目には、「オンラインジャーナルの出版と価格の動向」と題して、窪田国際事務所の窪田輝藏所長に講演をしていただきました。

シンポジウムでは2つのサブテーマが設けられ、初日は「外国雑誌の収集と提供」ということで冊子体に視点を置きながら、オンラインジャーナルも視野に入れて外国雑誌の現状を考えるとという内容でした。2日目には、「オンラインジャー

ナルの導入と契約」という、今日、最大の問題となっている部分に焦点をあて、問題解決に向けて検討を行っていくという内容でした。両日を通じて、さまざまな事例報告や情報交換が活発に行われるとともに、全体討議では、各大学で最大の懸案となっているオンラインジャーナルの契約問題に話題が集中しました。

また、関東地区国立大学附属図書館職員研修会は、国立大学図書館協議会シンポジウムと合同で開催されましたが、質疑応答や討議は同じ会場において行い、個別討議は別会場において行うという従来と異なった形式になりました。

以下、基調講演の概要等を記載しますが、事例報告は紙面の都合により省略しました。



(大塚事務部長基調講演概要)

外国雑誌，特にオンラインジャーナルを検討するときに重要となる視点や外国雑誌センター館の現状などを中心に講演をしていただきました。外国雑誌センター館の役割と収集計画，外国雑誌購入数低下の原因，オンラインジャーナルの普及とその影響・効果，予算獲得の方策と意思決定や調整，オンラインジャーナルの利用者教育についてなど，大学図書館の今後の対応を示唆される内容でした。

課題として，契約方式や価格体系が不統一であ



ること，新たな継続的な出費増を誰が負担するか，出版社との交渉に手間がかかること，サイトライセンス契約が困難，ユーザインターフェイスが不統一である，効果的なユーザ教育の開発，導入効果を測定することが困難，アーカイブの利用保証が不安，ILLに使用できるかどうか，コンソーシアム契約が認められないなど多くの問題点を指摘されました。また，IDEALやSD - 21に対する各地区での取り組みの状況，契約上の制度改善の動きや出版社への積極的な働きかけなど最新の情報も紹介されました。

(窪田所長講演概要)

オンラインジャーナルの出版と価格の動向について，図書館や出版社，研究者の対応がどうであったか，図書館職員と違った視点から講演をしていただきました。

急速な電子化の動きに対して，出版社自身も変革を迫られている現状と既にその変貌が現れている部分（ビジネスモデル）について，さらに，紙と電子の両方が求められる市場やアメリカにおけるILLシステムの構築とそのバックグラウンドについて，今後の価格動向は，紙と電子のアウトプット量が均衡する時が何時であるかという予測にかかっていることなど興味深い内容でした。

最後にユーザも出版社も過渡期でどのようにシフトするか模索中である今，図書館がイニシアティブをとり，新しい試みを行い，学術研究に，そして仕事にも大きなインパクトを与えるために，ビジネスマインドが図書館に求められていることを指摘されました。



(第1日目の質疑応答・討議・講評)

NatureやScienceなどのオンラインジャーナルの扱い、特に購入費の問題や出版業界の動向、学内での対応状況などについて積極的な意見交換が行われました。また、外国雑誌センター館におけるコアジャーナルの基準や保存図書館構想についても質問がありました。さらに、利便性と価格の関係、カバーする範囲やバックファイルの維持について、図書館としてどのように対応していくかなどの問題も指摘されました。今後、積極的にトライアルと利用者教育を行うことにより、電子ジャーナルに対する理解を深めていくことが特に重要であるということも確認されました。



全体討議終了後、1日目のまとめとして、各コメントータから講評をしていただきました。堀松恵美子氏からは、重複製本雑誌や紀要類の廃棄によるスペース確保や保存問題について、片山俊治氏からは、電子ジャーナル導入の費用分担や図書館のイニシアティブについて、また、大埜浩一事務部長からは、電子ジャーナル導入の予算確保とそのためプロセスについて、特に上層部の役割と問題意識の重要性についてご指摘をいただくとともに、電子ジャーナルの流動的な現状についてまとめをしていただきました。



(第2日目の質疑応答・討議・講評等)

電子ジャーナルの調査方法や契約方法、学内での協議方法などについて、特に購入方法については、会計法との問題がクローズアップされました。今後、最新の情報を入手するための方策やスムーズな情報の流れをつくることの必要性についても指摘されました。

全体のまとめとして、窪田所長から、2日間にわたる講演や事例報告などを通じ、日本の図書館職員の電子ジャーナルに対する取り組みについて賞賛をいただくとともに、今後の学術情報の動向と情報サービスのあり方についてコメントをしていただきました。

最後に、司会の小西情報システム課長（筑波大学附属図書館）から、「紙や電子の媒体に関わらず、学術情報を確保し提供するという図書館の役割を積極的にとらえ、先導的な役割を担っていることを認識し、このシンポジウムで指摘されたさまざまな問題が解決されることを待つことなく、時代の流れに遅れないよう取り組み、自分たちの築きあげる世界を早期に見出す必要がある。」とまとめをしていただき、閉会となりました。



この度は、国立大学図書館協議会シンポジウムと関東地区国立大学附属図書館職員研修会が合同で開催されましたが、現在どこの大学においても最大の関心事となっている、オンラインジャーナルの導入をどのように進めていくかという共通テーマのもとに、全国的な見地から参加者全員が積極的に取り組むことができ、多大なる成果をあげることができた2日間でした。